学校だより
緑風 〈りょくふう〉
校訓　継続は力なり

鴻巣市立吹上中学校
学校だより「緑風」は、毎月本校ＨＰに掲載しています。
本校ＨＰ　https://fukiage-j-konosu.edumap.jp/
令和８年１月８日（木）　第９号

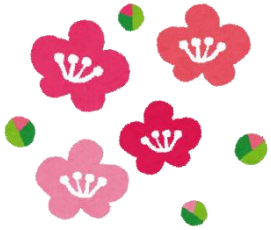
学問とは　～人は何のために学ぶのか～

校長　大島　進

新年を迎えました。令和８年となり、吹上中学校の生徒はもちろんのこと、保護者・地域の皆様にとって、良い１年となりますことをお祈りいたします。今年もよろしくお願いいたします。

さて、３年生もいよいよ中学卒業後の進路決定に向けて最終局面を迎えようとしています。進学先の決定は、中学生という３年間で考えるとゴールとも捉えられるかもしれませんが、卒業後の視点で考えるとこれからの人生の新たなスタート地点を決めることのようなものなのかもしれません。

新年の最初の学校だよりですので、学校の本分である「学ぶこと」について取り上げてまいります。
私たちは、何歳になっても学ぶ機会が訪れます。中学・高校でも当然多くのことを学びますが、就職しても学ぶ機会は数多く訪れます。私は就職して教師になりましたが、目標ができる度に、休日に図書館に通ったり、朝早く起きて勉強したりした記憶がよみがえります。おそらく同じような社会人も多いのだと思います。
昨年の夏、昔の職場の上司で、その時に大変お世話になった方から、自ら執筆された本をいただきました。心に深く感じるものが大変多かったのですが、その中に学びについて「なるほど」と感じ入った部分が出てきした。難しいかなと思いつつもこれからも学び続ける吹上中の皆さんにも伝えたいと思いましたので以下、一部紹介します。

「本来、学問は自分の精神を鍛え人格を磨くためのものなのに、今の時代、名声と富を手に入れる手段として人々は学んでいる。そのため本人の生死を分けるような深刻な問題に直面しても損得勘定でしか考えることができず、磨いた学問知識が何の役にも立たないと（平泉）博士は嘆いているのです。」
「小林秀雄は平安時代の『今昔物語』からこんな話を取り上げています。ある夜、明法博士の家に強盗が押し入った。博士は板敷の下に隠れて無事だったが盗み終わって屋敷を出て行く強盗に、『夜が明けたら検非違使（警察）に召し捕らせるぞ！』と叫んだため、引き返してきた強盗に殺されてしまったという話です。今昔物語の作者は、『学問・知識は優れていても考えることが幼い、知恵がない』というのです。」　【歴史に学ぶ日本人の保守思想】　著作者：齋藤　仁より

私たちは何のため学び続けるのか。その答えは自分自身の幸・不幸とは何かを考えた時の答えと似ている点があるように感じます。
今の日本の社会では、学問に勤しみ、多くの知識を身に付けた方々の比較的多くは、高い学歴を有し、富や名声を得ている人が多いのが現状です。そのため、それこそが学問の一番の価値だと感じる人は、世の中に多いのかもしれません。
しかし一方で富や名声を得ても自分自身が幸せを感じているかどうかは、その人の心次第です。周りが勝手に評価してその人の幸せが決まるものでもありません。もしかしたら、自分の生き方を見つめ、心を磨く視点をもう少し大切にして、様々なことを学んだ方が幸せを感じて生きられる人になるかもしれません。
何が限りある自分の人生の幸・不幸で、何が価値あるものなのか。それを決めることができるのは生きる知恵（または智慧）を身に付けた自分の心だけです。
吹上中学校の生徒が今年も大いに学び、自分にとって価値ある幸せを見つけ、知識と経験から得られる知恵を身につけられるよう、月日を重ねていってほしいと思います。